

科目ナンバリング		G-LET27 67031 LJ38									
授業科目名 <英訳>		考古学(特殊講義) Archaeology (Special Lectures)				担当者所属・ 職名・氏名		人文科学研究所 准教授 向井 佑介			
配当 学年	1回生以上	単位数	2	開講年度・ 開講期	2019・ 後期	曜時限	火2	授業 形態	特殊講義	使用 言語	日本語
題目		中国南北朝寺院の考古学的研究									
【授業の概要・目的】											
<p>東魏の楊銜之『洛陽伽藍記』巻五によれば、6世紀前半の北魏洛陽には1,367の寺院があったという。その数字にはいくらかの誇張があるとしても、当時の皇帝や王侯貴族がさかんに仏教を信仰し、北魏の洛陽や東魏・北齊のギョウ城、南朝の建康など各地で無数の寺院が建設されたことは、諸書の記載に明らかである。それらのなかで、考古学的発掘によって明確な寺院の遺跡が確認されているのは数例しかないものの、出土した遺構と遺物から当時の仏教寺院の様相の一端をうかがうことができる。この講義では、中国の南北朝時代後期、およそ6世紀頃の仏教寺院を対象とし、その遺跡と遺物のもつ意義を明確にするとともに、隋唐時代への展望と朝鮮半島や日本列島への伝播の過程についてさぐることを目的とする。</p>											
【到達目標】											
<p>中国南北朝の仏教寺院は、朝鮮三国を介して日本の飛鳥時代寺院にも影響をおよぼしたと考えられている。この講義では、近年の考古学的調査によって次第が明らかになってきた南北朝時代後期の寺院の具体的様相とその意義を理解することを目標とする。同時に、仏教寺院を中心とした歴史考古学や美術考古学・建築考古学の方法と成果について理解を深めることを目指す。</p>											
【授業計画と内容】											
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中国南北朝寺院研究の現状と課題 中国南北朝寺院の研究史と課題 中国南北朝寺院考古学の資料と方法</li> <li>2. 北魏洛陽の仏教寺院 漢魏洛陽城の考古学 北魏洛陽の都城空間と寺院 北魏洛陽永寧寺の発掘 龍門石窟の開鑿 洛陽周辺の石窟寺院</li> <li>3. 東魏・北齊の仏教寺院 東魏・北齊都城の考古学的発見 趙彭城仏寺の発掘 核桃園遺跡の発掘</li> <li>4. 南朝仏教寺院の探索 文献にみる東晋南朝の仏教寺院 南朝の寺院遺跡と遺物</li> <li>5. 隋唐時代への展望 双塔伽藍の成立 隋唐寺院の伽藍配置 仏教寺院の東方伝播</li> </ol>											
----- 考古学(特殊講義)(2)へ続く -----											

考古学(特殊講義)(2)

**[履修要件]**

特になし

**[成績評価の方法・観点及び達成度]**

平常点（小レポートなど）20%と学期末レポート80%をあわせて評価する。

**[教科書]**

毎回レジュメを配布する。

**[参考書等]**

（参考書）  
授業中に紹介する

**[授業外学習（予習・復習）等]**

日頃から自身の専門以外のさまざまな学問分野に目を向けるとともに、学内外の博物館施設などを利用して積極的に実物資料を見学するよう努めること。

**（その他（オフィスアワー等））**

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。